



コバトン



平成30年度病害虫発生予察注意報第2号

平成30年8月8日
埼玉県病害虫防除所

県内のシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が平年より多く、ネギほ場では幼虫の食害が確認されています。

本虫は野菜、花きを中心として60種類以上の作物を加害しますが、埼玉県で被害の大きな作物は、ネギです。

ふ化幼虫は集団で葉の先端や折れた部分から葉身内へ食入しますので、被害を確認したら直ちに防除を実施しましょう。

作物名 ネギ

病害虫名 シロイチモジヨトウ

1 注意報の内容

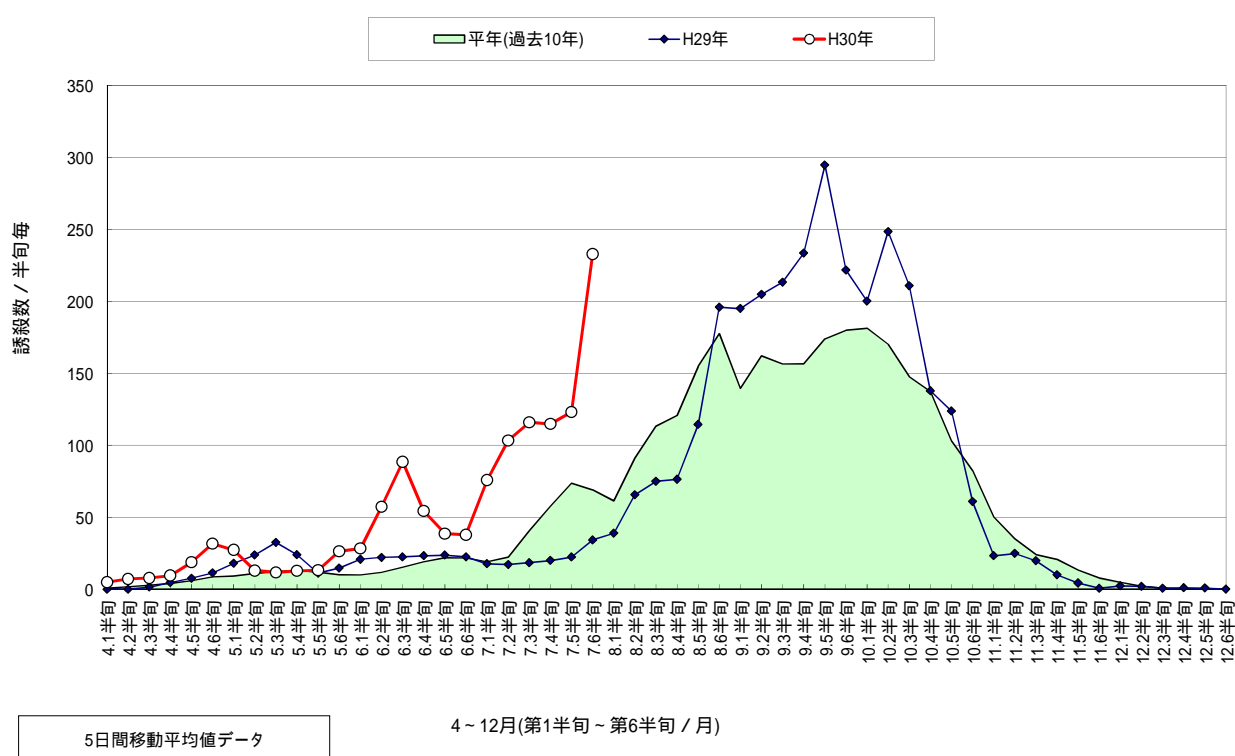
- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

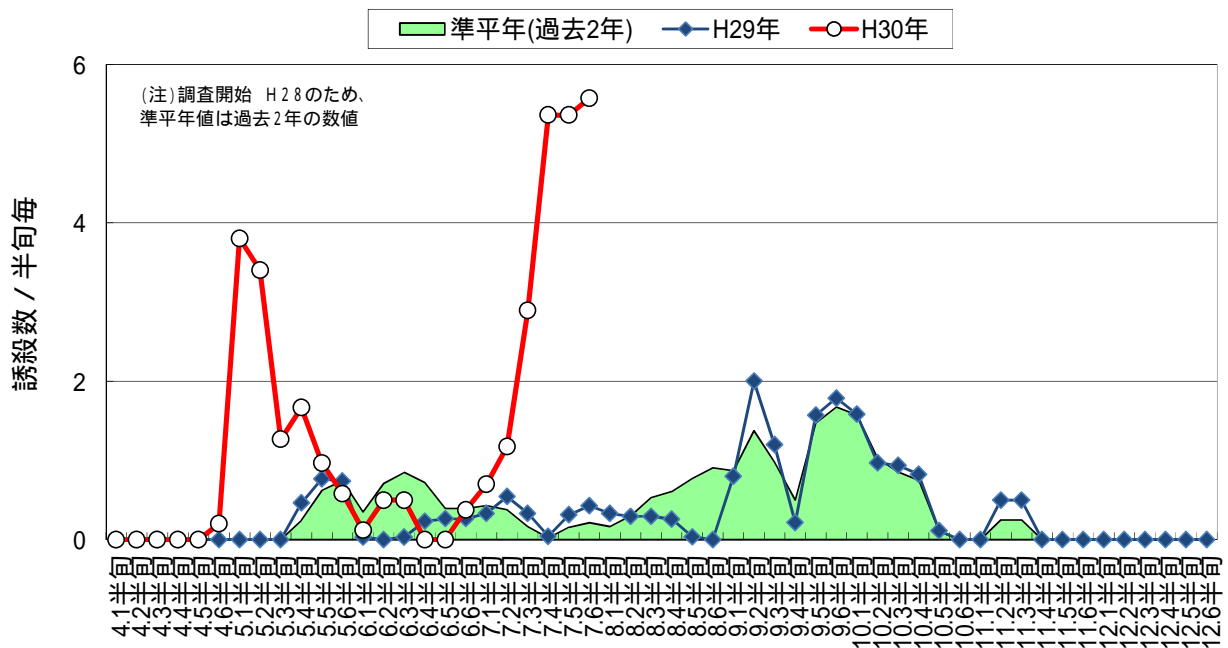
2 注意報発表の根拠

- (1) 病害虫防除所が設置したシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの雄成虫誘殺数が、6月上旬から増加し、県北部(深谷市)、県東部(越谷市)で多い傾向にある。(図1, 図2)
- (2) 8月2日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は平年より高い確率が70%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、本害虫の発生に好適な条件が継続し、多発生が予測される。
- (3) 現在、作型が早いネギほ場で幼虫の発生、食害が確認されている。(写真1, 写真2) 例年、冬・春ネギの定植が終わる9月上旬に多発時期となることから、今後これらのほ場でも被害拡大が懸念される。

3 防除対策等

- (1) 早期発見に努め、卵塊やふ化直後の1～2齢幼虫の集団を見つけたら速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。
- (2) 幼虫が作物内に食入してしまうと薬剤効果が低下するので、被害を確認したら直ちに防除を実施する。
- (3) 老齢幼虫に対しては薬剤効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうちに実施する。また、同一系統の薬剤の連用は避ける。(表)
- (4) 性フェロモンを利用した交信かく乱剤(商品名:ヨトウコン-S)が利用できる。ただし、露地で使用する場合は少なくとも5ヘクタール以上、できれば10ヘクタール以上のまとまった処理面積が必要である。





5日間移動平均値データ 4~12月(第1半旬~第6半旬/月)

図2 シロイチモジヨトウ誘殺消長(対象作物:ネギ 調査地点:越谷市中島)



写真1 シロイチモジヨトウ若齢幼虫 (体長約2mm)



写真2 シロイチモジヨトウによる被害葉

表 ネギのシロイチモジヨトウの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
ベリマークSC	2 8	収穫 7 日前まで (株元灌注)	1
カスケード乳剤	1 5	収穫 1 4 日前まで	3
ディアナSC	5	収穫前日まで	2
トルネードエースDF	2 2 A	収穫 1 4 日前まで	2
フェニックス顆粒水和剤	2 8	収穫 7 日前まで	3
プレオフロアブル	UN	収穫 3 日前まで	4

(使用基準は平成30年8月6日現在)

4 I R A Cコード及びF R A Cコードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、I R A C (世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会) 及びF R A C (同連盟殺菌剤耐性菌対策委員会) の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>

埼玉県農薬危害防止運動実施中! (平成30年5月1日~8月31日)

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。

http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintourokujouhou.html?_mode=preview

5 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661